



令和2年1月8日

報道関係各位

～見て・聞いて・体験して・風呂敷の魅力を見～

## 福生の茶室福庵で風呂敷展示イベントを開催します

福生市公民館では、1月9日(木)～12日(日)の4日間、富士山・鶴・鯛・海老・日の出などをデザインした珍しい風呂敷を50点展示します。また、展示期間中は、木綿古布収集家である豊田満夫氏による展示作品の説明や、「ふろしき研究会」の会員による包み方講習を実施します。

### ■風呂敷の良さを見て、聞いて、体験

市では、「茶室福庵でおもてなし」として、和の魅力に触れてもらう事業を行っています。本イベントでは、展示される風呂敷の持ち主でもある豊田満夫氏が、実際に展示作品の説明を行うほか、展示期間中の午前10時～午後3時の時間帯で、ふろしき研究会会員による、風呂敷の包み方講習を実施します。さらに、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」開催年であることから、「1964年東京オリンピック」をデザインした風呂敷なども展示を予定しており、広く風呂敷の魅力を発信していく狙いです。※写真入りの出展リストが福生市公民館にあります。

### ■イベント概要

【イベント名】「茶室福庵でおもてなし」江戸東京の初春を祝う風呂敷展～風呂敷祝いづくし～

【日時】1月9日(木)～12日(日) 午前10時～午後3時

【場所】茶室福庵(福生市熊川854-3)

### ■豊田満夫氏プロフィール

1952(昭和27)年に東京都中央区日本橋呉服太物商戸田屋商店に入店し以来50年勤める。その間、手ぬぐい約1万本、風呂敷約5千枚、ポチ袋約3千枚、その他木版刷などを豊田コレクションとして収集し保存に努め、江戸から昭和の庶民たちの遺産を後世に遺したいと思い、手ぬぐいや風呂敷などの展示会企画や、各種イベント、講演会などの庶民文化を伝える活動を行っている。



### ■ふろしき研究会の紹介

「ふろしき研究会」は、ふろしきが忘れ去られようとしているなかで、現代のくらしにふろしきを活かすこと、次世代に伝えることをテーマに、1992年立ち上げ、新たなふろしきの包み方を提案し、さまざまな活動を続けている非営利の市民団体です。会員は全国に広がっています(会員約220人、2018年1月末現在)。

小・中・高校総合学習、環境学習をはじめ、自治体の環境学習、消費者教育、高齢者を対象とした社会教育、国際交流、障害者との交流など、ふろしきの包み方の講座に出向いています。

ふろしきに象徴される日本のくらしの伝統を大切に思い、2019年9月一般社団法人となり、さらに活動を広げています。

【問合せ】福生市教育委員会公民館公民館係 TEL042-552-2118

E-mail [f-hall@city.fussa.lg.jp](mailto:f-hall@city.fussa.lg.jp) 担当：小笠原